



114
A 96



島本仲道誠惶誠恐謹言
 夫仲道不肖夙朝恩ヲ辱シ切リニ官位ヲ汚ス兼
 アリ一旦職ヲ辞レ閑地ニ在リト虽未タ嘗テ一日モ
 心ヲ閑地ニ放シ能ハス以切ニ冀クハ朝野ノ間ニ立テ
 分ノ心カヲ竭シ以テ餘恩ヲ報セント頃日麻見篤ノ
 警アルヨリ朝野駭然タリ仲道亦切ニ意ヲ一タシ閣下
 ニ謁シ鄙策ヲ献セント目テ復タ顧フ方今賢良第
 が如庭ニアリ其之レヲ平定スル國ヨリ遺策ナカルニ
 何ソ仲道等ノ杞憂ヲ抱クニ足ランヤ而テ征討ノ令
 下ルヨリ既一月余出兵殆トナシ大隊加ルニ巡查
 数千人ヲ以テス征討ヲニ勝敗アリ平定ノ期未ノ何
 ノ日ニアルヲ知ラス
 天皇陛下驛ヲ西京ニ駐ノラレ在庭ノ諸々東西ニ余

大正十一年四月
 隈侯爵邸寄贈

3304



走レ府庫費ス所数百万ヲ下ラカルヘシ人心之カ為
ノ恟々況マ九州地方ノ農高業ヲ空スル者幾何ノ
全国ノ會計ヲ算スレハ其損害タル莫シ大嗚呼時
事已ニ期ニ至ル仲道亦黙スルニ忍セサルナリ請フ
閣下幸之ヲ恕セヨ抑維新日尚ホ淺ク政治未ク
天下、洽子カラス暴ニ佐賀ノ變アリ近日、魁弁山
口ノ乱アリ其他草寇一揆ノ如キ往々絶ヘス逆ニ麻
兒黨ノ事、馴致ス苟モ敢ノ如キ上ニ
宸襟ヲ安シ下モ人民ノ生業ヲ學ム何ノ日ヲ期ス
ヘケンヤ、仲道、功カニ以テラク江岸新字前原一
誠、西御陰盛ノ如キ者、固リ國憲ヲ犯シ國安ヲ害ス
ル者、反賊ノ名免レサル所アリ然レトモ是皆復古ノ
功臣ニシテ前日ニ在リ、諸公ト同ク、廟廊ニ坐シ國

家ノ安寧ヲ謀ル者、而シテ遂ニ安ノ如キニ至ル者、其由来ス
ル所、蓋シ以ヘアラシ古ヨリ、功臣ノ其終リテ善クタル
者、往々史策ニ見エ、國ヨリ罪其人ニテアリトモ、功臣ヲ
シテ、猜忌自ラ安センセラルニ至ラシムル者、亦朝廷ノ長
事ト謂フヘカラス、
今日、復タ西
郷隆盛、腫ヲ諸ニ接ス、何ノ其レ、朝廷ノ不韋ナル也、而
シテ隆盛、新平一誠ノ比ニ非カルナリ、名望天下ニ滿ク
兵カ亦強シ、若レ平定期ナリ、兵統シテ解ケス、曠日
弥久スルニ至ワレ、或ハ應永元魁ノ勢ニ馴致スル在ル
モ、亦料ルヘカラス、
此間古語、當局者、迷傍觀者、ハ明也、
隆盛等ニ敵視セラル者、諸公ナリ、其反逆ノ鳴ラシ
廣ク天下、号令シ之レテ討スルモ亦諸公ナリ、諸
公ニ在テハ、公明ニ大、其處置一ツモ當ヲ夫フナキ

ヲ信スト皇頻年功臣ニ敵視セラルルハ此ノ如シ及令
諸公ヲシテ胸中芥蒂セサラシムルモ其レ
天皇陛下ヲ奈何シ其レ百萬ノ生靈ヲ奈何シ其レ天下
後世ヲ奈何シ此間仲道自ラ明ナリト云ニ非レトモ等ノ語アリ
前日ノ跡ヲ以テ今日ノ心ヲ釋スルニ決レテ天下ヲ私セ
ントスルノ反賊ニ作ルヤ明カナリ
今日ノ跡ヲ亂テ謀ルナリ亂賊ヲ討スルナリ然レトモ
其心ヲ推レテ前日ノ許フルハ諸公ノ心隆盛ニ志其
果シテ如何ソヤ事茲ニ至ル亦タヨリ言テ貴サス
況ヤ大臣タル者
天皇陛下ヲ輔弼シ可否ヲ獻啓スル職掌ニ於テシテ然
レ則チ之ヲ為ス如何ニ仲道諸公其策ヲ陳
セシ其レ華族ハ天下ノ表柱ナリ腹心ナリ名望ヲ

ル者ハ耳目ナリ今マ腹心ト耳目トヲ梟ノ之ヲ輿
論ニ取テハ必ス得ルナリ人惑ハ言ハレ今日野ニ是
賢テシト其レ然リ豈其レ然ラシヤ閣下若シ仲道
策取ルニキナリトセハ請フ建ニ必膏ヲ興スヘシ居
レ取ルニ是ラストセハ必又奇計良策アルアラバ仲道
將ナニ閑、執キ逸ニ安シ私力ニ自ラ激セリトス正
ニ、情ニ堪ヘス尊嚴ヲ日月漬ス忌惶止ム無シ

Handwritten text in vertical columns, likely a manuscript or ledger. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. The characters are small and densely packed, typical of traditional East Asian calligraphy. The text appears to be organized into columns, possibly representing different categories or entries in a ledger.

